

人生ハンド仏句

第69号

H.19.12.1
(毎月1日発行)

身延山参拝と 終えて

住職 谷川寛俊

先月二十三日～二十五日の二泊三日、バス一台にて身延山並びに七面山参拝に行つて参りました。今年も四年振りに七面山登山とあつて、数ヶ月前より密かに脚力の鍛錬をして準備を整えていました。

出発数日前より急に寒くなり季節はずれの雪も降り、果たして七面山は大丈夫だろうか、前日確認したところ山梨県地方は連日快晴との事でまずはホッと一安心。

糸魚川から大町・白馬に抜ける道路には数十センチ以上の降雪があり、やはり雪国と言つ感じがしました。しかしやがて中央高速道路を走る頃には、空も明るくなり、冬場特有の「西高東低」の気象状況で表日本は上天気、富士山もくつきり見えて心も晴々、予定より早く身延山に到着、早速ロープウ

エーで奥の院思親閣へ参拝、ここは日蓮聖人が身延山九ヶ年間お住まいの折、風雨いとわず毎日の様に登られ、はるか房州小湊の方に向つてご両親様を追慕され、時には涙された霊跡です。昔は歩いて二時間半もかかる道のりも、ロープウエーが出来て、わずか七分で頂上まで参拝できるようになり誠に有り難い時代になったものです。

その後、御廟所(日蓮大聖人の墓所)へ参拝、一同読経(いちどうとっきょう)し無事到着を報告し、宿坊に入り一日の疲れを癒しました。

翌朝六時、本山の大変厳かなお勤めに参拝、身も心も清められた感じでもすがすがしく、九時から大聖人の御真骨堂(大聖人様のお骨が納めてある)にて、第五十一回祖廟輪番(そびょうりんばん)奉仕法要、今日一日お給仕を申し上げる行事で、過去五十回も開催しているのは全国五、七〇〇ヶ寺ある中でも十本の指に入ると自負しています。

身延山久遠寺第九十二代法主(ほつす)様から親しくお言葉を賜りました。

編集・発行
玉蓮山 真成 寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX (0765)22-2268
メールアドレス
kokorochanthk@ybb.ne.jp
ホームページアドレス
<http://www.geocities.jp/sinjyoujitoyama108/>

現法主様は、なんと七百五十年前日蓮大聖人を招き迎えられた身延山の領主であつた波木井実長公の直系の子孫で大変有り難く感じました。無事輪番法要も修了し、午後からいよいよ七面山登山です。今回参加者のほとんどが初めて登られる方々で最高齢が八十歳(今回2回目)七面大明神のお守りで全員元気に登ることが出来ました。

この七面山の由来は、大聖人様が身延山の麓で毎日ご信者に向つてお説法をされていた時、蔭で聞いていた一人の女性に対し聖人は、「あなたは法華経の守護神である七面天女である。」と言つと、龍神の姿になつて西の方向へ飛んでいったと言つ。以来七面山へ登詣する人達にそれぞれ御利益を授ける守護神になられたのでした。

翌朝六時二十分頃この日の宿泊者約二百人くらいの人達が、山頂の広場に出て、正面には富士山がはつきりと見え、皆で読経とお題目を唱える中やがて暗夜を割つて真っ赤に燃え盛つたような大きな太陽が顔を出して来ました。零下三度、しかも空

気が澄みきつているご来光には感動的でした。

大聖人様がかつて房州清澄のお山で、太平洋上から登り来る太陽に向つて「我れ日本の柱とならん、眼目とならん、大船とならん、南無妙法蓮華経」とお唱えになられた三大誓願を思い出し、心を新たに致しました。

いつお参りしても何んとも言えない有り難いこの身延山と七面山、「心にシャワー」という言葉があるように一年に一度、心の洗濯に皆様もお参りされますようお勧め致します。

来るべく年もお題目信仰を中心とした輝かしい年をお迎え下さい。心からお祈り申し上げます。

